

先日、北区の小学校で昆虫の観察の授業がありました。小学生に生きた昆虫の観察をさせるのはなかなか難しいのですが、当研究所では「コオロギ」を使っています。まとまった数のコオロギを集めるのは大変だし、常時飼育しておくのはもっと大変です。そこで、「フタホシコオロギ」というコオロギを購入して使っているのです。

フタホシコオロギは観賞用や鳴き声を楽しむためのコオロギではなく、「餌用のコオロギ」です。カメレオンなどの爬虫類や、カエルなどの両生類の餌として使われています。ほかにも「ヨーロッパイエコオロギ」や「クロコオロギ」などが餌用として販売されていて、動物の種類や大きさによって使い分けられています。フタホシコオロギは一番栄養価が高く、あまりピョンピョン跳ねないので、使いやすいのだそうです。

購入は 100g 単位で、箱に入って宅急便で届きます。終齢幼虫や成虫が多いので、時には最後の脱皮の一瞬を見られることもあります。脱皮（正確には羽化）直後のコオロギは真っ白です。産卵管があるので、メスですね。私は一瞬アルビノ（白化个体）のコオロギかと思ったのですが、少しずつ色が濃くなって、最後は普通のコオロギに変身しました！

